

事務事業名	県産牛乳消費促進総合支援事業費	所管課	畜産課
--------------	-----------------	------------	-----

【予算科目】

款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産流通対策費 細目：畜産物流通対策費
 事業：県産牛乳消費促進総合支援事業費
 細事業：①らくのう教育実践推進事業費 ②あおもり県産牛乳普及啓発事業費補助
 ③高齢者等県産牛乳飲用促進事業費補助

【施策体系】

新プラン計画事業
 未来力あふれる社会／産業フロンティアの創造／明日を拓く農林水産業／農業の振興

【事業の目的】

県内における県産牛乳の普及啓発・消費拡大を推進し、もって、酪農家の乳価の安定を図る。

【事業の概要】

- （らくのう教育実践推進事業）県内における酪農教育ファーム活動を推進するため、県内における取り組み状況調査や検討会議の開催等を実施し、本県における酪農教育の課題や今後の方向を検討する。
 （平成13年度から実施）
- 全農青森県本部に対し、青森県牛乳普及協会の行う以下の事業に要する経費について補助する。
 （平成8年度から実施）
（あおもり県産牛乳普及啓発事業）
 (1) 消費者との交流推進事業（交流会の開催等）
 (2) 需要拡大対策事業（高校生に対する普及啓発、骨密度測定、パンフレット作成等）
 (3) 消費拡大対策事業（宣伝・広告、キャンペーン実施、販促資材の作成等）
（高齢者等県産牛乳飲用促進事業）
 (4) 老人保健施設における県産牛乳の消費を促進するため、週5日以上供給した場合に1本（200cc）当たり3円～1円を当該施設に対して助成する。

【執行計画の有無】 有

「県産牛乳消費促進総合支援事業費補助金交付要綱」により実施

【予算の状況】

（単位 千円）

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
3,172	0	3,172	2,901	271	91.5	決算額は監査調書上の数字
			2,901	271	91.5	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			2,901	271	91.5	決算額は監査で確認した結果の数字

（節別内訳）

（単位 千円）

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
賃金	16	16	0	16	0	16	0
旅費	204	130	74	130	74	130	74
需用費	139	139	0	139	0	139	0
役務費	10	10	0	10	0	10	0
使用料及び賃借料	20	20	0	20	0	20	0
負担金、補助及び交付金	2,783	2,586	197	2,586	197	2,586	197
計	3,172	2,901	271	2,901	271	2,901	271

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 負担金、補助及び交付金 197千円

- ・不用額が生じた理由 実績が当初計画を下回ったことによる。
- ・減額補正しなかった理由 補助金額が年度末にならないと確定しないため。

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

酪農については、健康志向の高まりとともに、乳製品のみならず、情操教育、景観の保全等、その役割が多面的に注目されるようになってきた。その一方で、大企業の製造した乳製品による食中毒事件やBSE（いわゆる狂牛病）等により、乳製品の消費が減退し、ひいては乳価が下落し酪農経営に大きな影響が出るのが懸念された。

そこで、消費者に対して酪農への理解を深めてもらい、県産牛乳の消費拡大を図り、県内酪農家の経営安定を図るための取組みが重要となっている。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

- (1) らくのう教育実践推進事業費（389千円）については、平成14年度において、東北6県畜産課長会議への出席旅費（160千円）、畜産関係情報紙等購入代（83千円）、来客用牛乳代（57千円）及び県農林水産祭準備・運営等に係る旅費（24千円）等、一部、他の事務事業経費として執行されている。
- (2) あおもり県産牛乳普及啓発事業費については、平成14年度において、協会が実施した3事業に対し、1,350千円の補助を行った。
- (3) 高齢者等県産牛乳飲用促進事業費については、平成14年度において、1,236千円の補助を行った。なお、飲用実績として、事業開始からこれまでに、延べ223の老人保健施設（補助対象施設）に対し約600万本の牛乳が供給された。

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

（平成15年8月22日現在）

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H)
成果 指標	指標1	県産牛乳普及率推定値（%） （県内飲用牛乳生産量－県外への 移出量）／（県内飲用牛乳生産 量－県外への移出量＋県外から の移入量）	目標	70	70	70	70	70
			実績	59	58	57	55	
活動量 指標	指標2	消費拡大キャンペーン開催 回数	目標	2	2	2	2	—
			実績	2	2	2	2	
活動量 指標	指標3	老人保健施設における飲用 実績本数	目標	856,237	872,019	1,110,000	906,000	—
			実績	856,237	872,019	897,161	882,681	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

一部、事務費を除き、おおむね当該事務事業のために執行されている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

らくのう教育実践推進事業において、一部、事業費が他の事務事業経費として執行されているものがあり、予算計上の事業内容が、行われていないことから、当事業のあり方について検討を求める。

2 事務事業執行上の意見等

- (1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。成果指標については、例えば、県内の牛乳消費量が横ばいとなった場合、県産牛乳の生産拡大が、乳価の下落につながる事が考えられることから、需要と供給の状況を踏まえながら、事業の目的（乳価の安定）に沿ったより適切な成果指標を設定するように努める必要がある。また、その他の指標についても、一部設定されていないものがあるので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。
- (2) 高齢者等県産牛乳飲用促進事業については、老人保健施設における飲用実績本数が伸び悩んでいることから、消費拡大という側面から、また、少子・高齢社会などを見据え、今後は、補助対象範囲について見直しを図り、より多くの県民に牛乳を消費してもらうよう努める必要がある。

事務事業名	保安林管理効率化推進事業費	所管課	林政課
--------------	---------------	------------	-----

【予算科目】

款：農林水産業費 項：林業費 目：保安林費 細目：保安林整備管理事業費
 事業：保安林管理効率化推進事業費
 細事業：保安林管理効率化推進事業費

【施策体系】

新プラン計画事業
 未来力あふれる社会／産業フロンティアの創造／明日を拓く農林水産業／林業の振興

【事業の目的】

森林法において、保安林の適正な管理の一環として、県は保安林台帳を調整、保管しなければならないこととされている。
 このため、保安林台帳の基本整備を実施し、保安林関係事務の確実性を確保する。

【事業の概要】

保安林台帳の精度向上を図るため、国土調査成果の反映、保安林指定後の地籍異動の調査等を実施し、保安林台帳の整備を図る。
 保安林台帳の整備後においては、土地登記簿及び公図と保安林台帳の現地番・図面が一致することにより、地籍異動の確認作業や地目更正等の事務が円滑に進み、保安林管理の適正化がより一層図られることとなる。

【執行計画の有無】 有

「保安林台帳整備計画」により実施

【予算の状況】

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
1,800	△68	1,732	1,732	0	100	決算額は監査調書上の数字
			1,732	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			1,732	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
委託料	1,732	1,732	0	1,732	0	1,732	0
計	1,732	1,732	0	1,732	0	1,732	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 2月補正(委託料△68千円)

入札残に伴う補正

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

現行の保安林台帳は土地登記簿及び公図と合致しないことが多いことから、開発などを巡る紛争や、森林保有者とのトラブルが多発する等、保安林行政の推進上大きな障害となっている。

このため、現行の保安林台帳に対する国土調査成果の反映や保安林指定後における地籍異動調査等を行う等、保安林台帳の適正な管理のために所要の整備を行うこととした。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

当事業は平成13年度から実施されており、年度毎に実施対象市町村を定め、保安林台帳の整備を行っている。

(保安林台帳の整備に係る一部作業について、1者随契により(社)青森県林業コンサルタントに委託)

(実施状況)

平成 13 年度 市浦村、鶴田町、森田村の 3 町村を実施

平成 14 年度 五所川原市、小泊村、深浦町、岩崎村の 4 町村実施

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 8 月 29 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H15)	
成果 指標	指標 1	保安林面積 (保安林面積)	目標	—	273,889	274,449	274,999	—	
			実績	—	273,547	274,471	276,085		
活動量 指標	指標 2	指定調査面積 (保安林に指定するための調査面積)	目標	95	310	110	111	—	
			実績	50	301	110	111		
	指標 3	標識設置本数 (標識設置本数)	目標	373	493	332	205	—	
			実績	437	500	286	205		
	指標 4	台帳作成筆数 (台帳作成筆数)	目標	890	1,182	628	960	—	
			実績	466	1,182	628	960		
	指標 5	保安林台帳 (整備対象市町村)	目標	—	—	3	4	—	
			実績	—	—	3	4		
	効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
				実績	—	—	—	—	

(注) 上記は平成 15 年度事務事業評価を実施した「保安林整備管理事業費」(今回、監査を実施した当事業を含んでいる。)の評価シートのものである。

4 予算の執行状況と事業目的との関係

保安林台帳の整備に係る委託料(1,732千円)として支出されており、予算目的どおりの支出となっている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

特になし。

2 事務事業執行上の意見等

(1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。

(2) 「治山事業関係並びに森林に関する調査等の業務を行い、これらに必要な専門的知識、能力及び経験を有している等」の理由から、(社)青森県林業コンサルタントに対して、1者随契により委託しているが、今後、競争入札を、試行・実施することについて検討する必要がある。

事務事業名	水田農業経営確立基幹排水事業計画費	所管課	農村整備課
--------------	-------------------	------------	-------

【予算科目】

款：農林水産業費 項：農地費 目：土地改良計画費 細目：県営事業計画費
 事業：水田農業経営確立基幹排水事業計画費
 細事業：水田農業経営確立基幹排水事業計画費

【施策体系】

その他行政事務（サービス）経費

【事業の目的】

国では、水田農業の体質強化及び転作の円滑な推進を図るため、水田の排水条件が不良で、転作が困難な地を対象に、水田農業経営確立排水対策特別事業を実施している。本事業計画では、事業採択に向けての基礎調査を行う。

【事業の概要】

平成 15 年度の事業採択に向け、前年度の 14 年度に県単事業として長富地区（五所川原市）の基礎調査を行った。本調査においては、青森県土地改良事業団体連合会にこれを委託したものであるが、その主な内容は下記のとおりである。

- (1) 基幹排水路縦断調査
- (2) 土壌地下水調査
- (3) 用排水系統調査
- (4) 計画排水量算定

【執行計画の有無】 有

「水田農業経営確立基幹排水事業特別事業計画」により実施

【予算の状況】

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備 考
1,041	0	1,041	1,021	20	98.1	決算額は監査調書上の数字
			1,021	20	98.1	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			1,021	20	98.1	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
賃金	13	0	13	0	13	0	13
旅費	20	20	0	20	0	20	0
需用費	3	3	0	3	0	3	0
役務費	2	0	2	0	2	0	2
委託料	1,003	998	5	998	5	998	5
計	1,041	1,021	20	1,021	20	1,021	20

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

米を取り巻く環境の変化に対応し、需要に応じた米の計画的生産を確実に推進することを前提に、米の作付けを行わない水田を有効に活用して、麦、大豆、飼料作物等の本格的生産を推進するための総合的かつ実効性の高い対策を講じ、安定した農業経営を確立していく必要があった。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

事業は昭和 54 年度から実施しているが、平成 13 年度までに 32 地区の完了をみている。

なお、前述のとおり平成 14 年度において長富地区を実施したが、これで計画策定地区は 36 となった。

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 7 月 7 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H11	H12	H13	H14	目標年度 (H)
成果 指標	指標 1	新規採択率 (%) (新規採択地区数/ 事業画策定地区数)	目標	100	—	100	100	—
			実績	50	—	100	100	
活動量 指標	指標 2	事業計画策定地区数	目標	2	—	2	1	—
			実績	2	—	2	1	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—	—	—
			実績	—	—	—	—	

なお、上記のとおり 32 地区の事業が完了しているが、これまでの計画策定地域は、すべて国から事業採択されている。

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業のために執行されている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

特になし。

2 事務事業執行上の意見等

- (1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。
- (2) 基礎調査の業務委託について、これまで、青森県土地改良事業団連合会と随意契約しているが、民間業者に委託することについての可能性についても、検討する必要がある。

事務事業名	あおもり「冬の農業」飛躍日本一推進事業	所管課	あおもりの「冬の農業」推進チーム
--------------	---------------------	------------	------------------

【予算科目】

款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費 細目：あおもり「冬の農業」飛躍日本一推進事業
 事業：あおもり「冬の農業」飛躍日本一推進事業
 細事業：あおもり「冬の農業」飛躍日本一推進事業

【施策体系】

新プラン計画事業
 未来力あふれる社会/産業フロンティアの創造/明日を拓く農林業/農業の振興/競争力ある産地づくり

【事業の目的】

農家所得や就労機会の拡大につながる「冬の農業」を飛躍的に推進するため、自然エネルギーなどを活用した「冬の農業」の推進方向や戦略を調査・検討するとともに、「冬の農業」エキスパートの養成やフォーラム等の開催により取組みの積極的な拡大を図る。

【事業の概要】

- ・産学官による戦略会議の開催
- ・各種ワーキングや農業者などとの意見交換会などの開催
- ・あおもり「冬の農業」推進プランの作成
- ・生産現場を指導する「冬の農業」エキスパートの養成や県内外の取組事例調査
- ・「冬の農業」フォーラムの開催や生産技術の向上のための徹底した個別指導
- ・事業実施期間 平成13年度から15年度迄の3年間

【執行計画の有無】 有

「あおもり「冬の農業」飛躍日本一推進事業実施計画」により実施

【予算の状況】

(単位 千円)

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
10,000	0	10,000	9,542	458	95.4	決算額は監査調書上の数字
			9,546	454	95.4	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			9,542	458	95.4	決算額は監査で確認した結果の数字

(節別内訳)

(単位 千円)

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
報償費	989	679	310	682	307	679	310
旅費	3,454	3,390	64	3,391	63	3,390	64
需用費	958	874	84	874	84	874	84
役務費	314	314	0	314	0	314	0
委託料	4,200	4,200	0	4,200	0	4,200	0
使用料及び賃借料	85	85	0	85	0	85	0
計	10,000	9,542	458	9,546	454	9,542	458

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 報償費310千円

- ・不用額が生じた理由 戦略会議委員の欠席のため。
- ・減額補正をしなかった理由 執行が年度末となり、額の確定が遅れた。

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

米価の下落や輸入急増に伴う、農産物の価格低迷などにより夏が中心であった本県農業が頭打ちの状況にある中で、冬の土地や労働力、自然エネルギーなどをうまく利活用し、地域活性化や青森県らしさの発揮につなげていく取組みに期待が高まっている状況にある。

2 事業開始年度から平成14年度までの実施状況

- ・13年度12月補正新規事業として急遽計上 2,700千円
プロジェクトチームの立ちあげ・総合検討など冬の農業の基礎調査やエキスパートの養成などを実施した。
- ・14年度までの実施状況
 - 1) 産学官で構成する「冬の農業」推進戦略会議の開催・検討会 8回
 - 2) 新エネルギー等の農業利用基礎調査 1件 委託契約金額 4,200千円
 - 3) 冬の農業エキスパート(指導者)の養成 48名
 - 4) 冬の農業への取組のパンフレットと等の作成・配布 15,000枚
 - 5) 冬の農業の実態調査 2回

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成15年7月23日現在)

区分	指標名 (指標式)			H13	H14	目標年度 (H)
成果 指標	指標1	「冬の農業」推進戦略会議	目標	4	4	—
			実績	4	4	
活動量 指標	指標2	新エネ等の農業利用基礎調査	目標	—	12	—
			実績	6	13	
			目標	—	4	—
			実績	12	4	
	指標3	冬の農業エキスパート等養成	目標	6	17	—
			実績	17	31	
			目標	—	—	—
			実績	40	40	
			目標	—	—	—
			実績	—	2	
	指標4	冬農業取り組みパンフレット作成	目標	—	2,000	—
			実績	—	10,000	
		冬の農業事例集作成	目標	—	—	—
			実績	—	500	
		シンポジュームの開催	目標	—	1	—
			実績	—	1	
指標5	「冬の農業」実態調査の実施	目標	—	1	—	
		実績	—	1		
	冬の農業ハウス栽培面積(ha)	目標	—	112	—	
		実績	99	115		
	冬の農業栽培取組人数(人)	目標	—	3,220	—	
		実績	3,147	3,246		
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当事務事業のために執行されていると認められる。

【問題点等】

- 1 予算執行上の問題点
財政課提出「平成14年度決算統計節別集計表」の決算額と一致していない。
- 2 事務事業執行上の意見等
 - (1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。
 - (2) 13年度～14年度は、主に、ソフト事業が主体でこれを指標としているが、14年度から実施するハード助成事業(ハウス等助成)の実績や生産額や農家所得等の指標についても、費用対効果の観点から、検討が必要である。

事務事業名

21世紀美しいふるさとづくり事業

所管課

道路課

【予算科目】

款：土木費 項：道路橋梁費 目：道路維持費 細目：道路環境美化対策費
 事業：21世紀美しいふるさとづくり事業
 細事業：道路環境美化対策事業

【施策体系】

その他行政事務（サービス）経費

【事業の目的】

道路敷地に植栽されたオオヤマザクラを適正に維持管理することにより、潤いある生活空間づくり及び青森らしい景観の維持を図る。

【事業の概要】

21世紀美しいふるさとづくり事業としてオオヤマザクラ・ハマナス植栽推進委員会が設置され、その活動の一環として植栽したオオヤマザクラの維持管理を行う。

各県土整備事務所において 12年度～13年度に植栽したオオヤマザクラの維持管理（維持管理とは、薬剤散布、補水、草刈り、剪定、追肥、雪囲い、補植等である。）

維持管理本数 4,713本
 内訳 1年目 2,922本
 2年目 1,791本

【執行計画の有無】 有

「オオヤマザクラ植栽の維持管理に関する経費（平成13年度から17年度）」により実施

【予算の状況】

（単位 千円）

当初予算額 a	補正予算額 b	最終予算額 c(a+b)	決算額 d	不用額 e(c-d)	執行率(%) f(d/c)	備考
7,367	0	7,367	7,367	0	100	決算額は監査調書上の数字
			7,367	0	100	決算額は財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字
			7,367	0	100	決算額は監査で確認した結果の数字

（節別内訳）

（単位 千円）

節	最終予算額	決算額 A	不用額 A	決算額 B	不用額 B	決算額 C	不用額 C
委託料	7,367	7,367	0	7,367	0	7,367	0
計	7,367	7,367	0	7,367	0	7,367	0

※決算額Aは監査調書上の数字、決算額Bは財政課提出「決算統計節別集計表」上の数字、決算額Cは監査で確認した結果の数字である。

<補正をしている場合はその理由> 該当なし

<一つの節で10万円以上の不用額> 該当なし

<一つの節で10万円以上の超過額> 該当なし

【監査の概要】

1 事務事業を実施するに至った背景

公共施設や公共空間に植栽したオオヤマザクラを維持管理することにより、潤いある生活空間づくりと自然環境の保全、青森らしい景観の創造を図るため、官民一体で構成されたオオヤマザクラ・ハマナス植栽推進委員会（県・市町村・県民・企業・団体・国機関等）により、県民総参加の取り組みとして実施している。

2 事業開始年度から平成 14 年度までの実施状況

オオヤマザクラの維持管理本数

事務所名	主要路線名	市町村	H13 (本)	H14 (本)	備考
青森	国道 280 号 青森五所川原線	青森市 平舘村	1,400	1,732	内真部～蓬田工区 野田工区
弘前	国道 102 号 大鱒浪岡線 弘前平賀線外	黒石市 浪岡町 岩木町外	1,494	1,594	ネックレスロード外
むつ	国道 279 号	風間浦村 大間町	10	30	
鱒ヶ沢	岩木山環状線 弘前岳鱒ヶ沢線外	鱒ヶ沢町	0	792	ネックレスロード外
八戸	十和田三戸線	新郷村	0	50	
五所川原	福山五所川原線	五所川原市	0	160	
十和田	天ヶ森三沢線 三沢十和田線外	三沢市 六戸町	18	355	
計			2,922	4,713	

(参考) 1本当たりの管理積算経費 1年目 1,800 円、2年目 2,300 円、3年目 2,900 円、
4年目 3,500 円、5年目 4,000 円

3 事務事業の目標とする指標と実績の関係

(平成 15 年 8 月 1 日現在)

区分	指標名 (指標式)			H13	H14	目標年度 (H33)
成果 指標	指標 1	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	
活動量 指標	指標 2	オオヤマザクラの維持管理本数 (オオヤマザクラの維持管理本数)	目標	2,900	4,713	—
			実績	2,922	4,713	
	指標 3	重点箇所整備指数 (%) (主要な道路、観光コース等におけるオオヤマザクラの維持管理本数/オオヤマザクラの全体維持管理本数)	目標	100	100	—
			実績	100	100	
効率性 指標	—	—	目標	—	—	—
			実績	—	—	

4 予算の執行状況と事業目的との関係

当該事業のために執行されている。

【問題点等】

1 予算執行上の問題点

当該事業に要した委託料において、他の事業と一括契約しているため、当事業分の執行分が明確でない。

2 事務事業執行上の意見

- (1) 評価指標の一部が設定されていないので、事業の目的に沿った適切な指標を、設定するように努める必要がある。
- (2) 植栽されたオオヤマザクラの成長に比例して維持管理費は、年々増加する傾向にあり、ボランティアの支援等も考慮し、今後の維持管理のあり方について、検討をする必要がある。